

1

特集

新中期経営計画 「リ・バイタライズ2020 (Revitalize2020)」について

当社グループは、前中期経営計画「NEXT100」について、その後が生じた経営環境の変化や対処すべき課題等を踏まえて見直しを行い、新たに2021年度(2022年5月期)を最終年度とする新中期経営計画「リ・バイタライズ2020(Revitalize2020)」を策定いたしました。

主旨

当社は、「NEXT100」で掲げた基本方針のもと、創立100周年となる2018年6月に新工場「滋賀竜王製作所」の稼働を開始するなど、経営基盤の強化を進めてきたところですが、採算の改善と製品開発のスピード感に課題が残りました。この「NEXT100」における成果と課題を出発点とし、創立100周年を迎えたこの時期にあらためて自らの経営資源を見つめ直し、2020年を直近のターゲットとした4年間の中期経営計画「リ・バイタライズ2020」を今回策定することとしました。

当社は、この計画で掲げる基本方針のもと“稼ぐ力”を高め、利益を安定して生み出す“筋肉質な”事業運営体制を確立すべく、新たな歩みを進めていきます。

長期ビジョン

確固たる経営基盤のもと、創業以来の卓越したモータドライブ技術と躍進する先進技術を融合した高品質な製品をグローバルに提供していくことで、地球環境にやさしい社会インフラシステムの実現に貢献してまいります。

基本方針

東洋電機グループは、組織の力を強化し、高品質な製品を迅速に顧客に提供していくことで、利益を安定して生み出す“筋肉質な”事業運営体制を確立します。

前半の2年間(2019年5月期~2020年5月期)は足元を固める期間とし、喫緊の課題である採算性の改善に注力します。後半の2年間(2021年5月期~2022年5月期)は売上高470億円超の達成に向けて成長を遂げる期間とし、新たなアライアンスやM&Aも視野に入れ、海外を含めて、事業を戦略的に展開していくことに注力します。



経営数値目標(連結)

中期経営計画に掲げる施策をより強力に推進していくため、今回から、持分法投資利益、ROE(自己資本当期純利益率)、配当性向の指標を追加しました。

	(単位: 億円)		
	2018年5月期 (実績)	2020年5月期 (計画)	2022年5月期 (計画)
売上高	425.27	430	470超
営業利益 (営業利益率)	3.66 (0.9%)	9 (2.1%)	20 (4.3%)
経常利益	5.15	11	24
純利益	6.92	7	16
持分法 投資利益	1.16	1.2	4.0
ROE (自己資本 当期純利益率)	2.7%	3.3%	5.0%
配当性向	68.2% ^(注)	30.0%	30.0%

セグメント売上高			
	2018年5月期	2020年5月期	2022年5月期
交通事業	279.49	290	310
産業事業	117.69	130	150
情報機器事業	28.01	10	10

(注) 2018年5月期は、普通配当30円に加えて、創立100周年記念配当20円を実施
2017年5月期の配当性向は24.2%



滋賀竜王製作所 正面



定盤エリア



制御盤組立エリア



回転機組立エリア



食堂



滋賀竜王製作所 全体

新工場 「滋賀竜王製作所」の 稼働開始

特集

滋賀竜王工業団地内にて建設を進めてきた新工場「滋賀竜王製作所」が完成し、2018年5月28日に多数のご来賓のご臨席のもと竣工式を執り行い、同年6月1日より稼働を開始しました。

滋賀竜王製作所の発足により、横浜製作所の一部と旧・滋賀工場(滋賀県守山市)に分かれていた産業事業の拠点が集約され、効率的な生産が可能になりました。また、新設したR&D棟における研究開発も強化していきます。横浜製作所は交通事業の拠点として、生産能力の拡大に向けた生産ラインの再構築を進めていきます。

産業事業においては今後、滋賀竜王製作所の生産ラインの稼働率向上により生産能力を高め、当社の技術力を活かした高品質な製品をグローバルに提供していきます。

創立100周年 記念祝賀会

特集

当社は、おかげさまで2018年6月20日に創立100周年を迎えました。これもひとえにお客様をはじめ、お取引先様、株主様、業界団体各位など多数の方々の長年にわたるご支援、ご愛顧の賜物と、心より御礼申し上げます。

当社はこれからも、「100年企業」としての矜持を胸に、日本、そして世界各国の鉄道インフラ、社会インフラの発展に貢献していきます。

寺島社長によるご挨拶



会場の様子



当社100年のあゆみパネル

式典名	東洋電機製造株式会社 創立100周年記念祝賀会
開催日時	2018年5月16日（水）18：00～20：00
会場	帝国ホテル東京 3階 富士の間
ご参加者数	約300名

100年のときを経て、 東洋電機製造へ里帰りした、贈答品の葉巻入れ ～イギリスから日本へ100年を節目に舞い込んだストーリー～

2016年9月 突然、当社に、
イギリスから一通のメールが届きました。

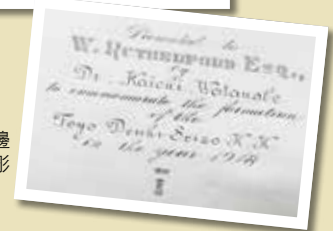
「東洋電機製造の初代社長渡邊嘉一が、ディッカー社役員へ贈った刻印の入った、銀の葉巻入れをオークションで買いました。これは貴社ゆかりの品でしょうか。もしよければ、日本へ行く予定があるのでお持ちします。」という内容でした。

当社の歴史を紐解くと、おそらくこの葉巻入れは100年前の当社創立時に、初代渡邊社長が記念の贈答品として、技術提携先のディッカー社へ贈ったものであろうことが確認できました。

この度の連絡は、日本のアンティークや骨董品がお好きなチャールズさん一家からで、オークションでひと目見て心を惹かれ購入されたそうです。そして、裏面に刻印された会社名と名前があることに気がつき、調べていくうちに当社に辿りついたそうです。



葉巻入れ



裏面は初代渡邊社長の名前が彫られている

なぜ当社にすぐ辿りついたのか、そこには理由があります。

初代渡邊社長は現在もイギリスで有名な技術者として知られています。世界遺産として有名なフォース橋のカンチバレー構造の考案者として、スコットランドの20ポンド紙幣にも刻まれており、葉巻入れに彫られた名前もすぐに理解ができたそうです。

当時、渡邊社長からどのようにお贈りして、その後葉巻入れはどのような経緯でオークションハウスに辿りついたのかは不明ですが、100年のときを経て東洋電機製造へ里帰りすることができました。

